

# KL9116で省スペース化しながらセキュアで快適なアクセス環境を確保



[会社名] 株式会社 JSC

[公式ページ URL] <http://www.jscnet.co.jp/>

株式会社JSC(以下、JSC)は「ITのプロフェッショナル企業」として、ソフトウェア開発、システム・ネットワーク構築から保守・運用・管理に至るすべてのプロセス、および、これらに関連する機器類の調達や設置等のサポートを行っている。2006年10月ジャスダック証券取引所に上場。社員一人ひとりが自分にとっての「+ONE」(プラスワン)を考えることで、会社全体として一歩前進した新しいサービスの提供を目指している。



## 導入前の課題

コンソールデバイスが専有するスペースの削減とシステムのリモート管理を同時に実現したい

JSCでは以前、複数のサーバーをKVMスイッチで集約し、これらをラックにマウントして使用していた。ラックにマウントされた機器は一見きれいに納まっているようにも感じられたが、KVMスイッチに個別に接続しているコンソール用のキーボード、モニター、マウスも同じラックに設置していたため、今度はこれらのデバイスのスペースが問題となった。とりわけ、モニターが占める割合はラック全体の約1/4にも及んでおり、現在の構成では、機器をラックにマウントする本来のメリットを十分に得られているとはいえない状況であった。このため、コンソールデバイスを他の機器で置き換えることでこの問題を解決しようということになったという。

これをきっかけに、作業環境の改善策も検討することになったが、その際にもう一つ持ち上がったのが、「サーバーへのリモートアクセス」という要件であった。これまでは、メンテナンスの度にサーバールームまで足を運んで作業を行っていたが、コンソールデバイスをリプレースするのを機に、リモートアクセスに対応した機器を導入し、より作業しやすい環境を構築したいという声も高まった。

## 購入のポイント

ラックの省スペース化とセキュアなリモートアクセス環境をもたらす KL9116 を採用



KL9116  
16ポートオーバーザネットドロー

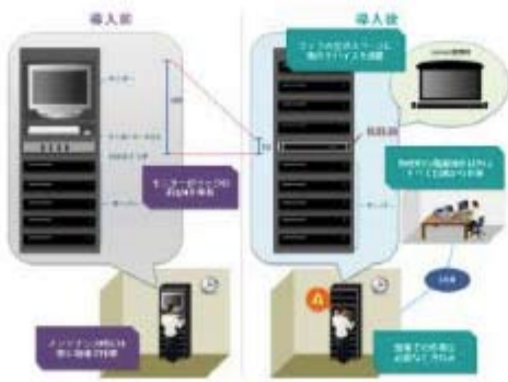
「コンソールデバイスのコンパクト化」と「複数サーバーのリモートメンテナンス」—これら二つの要件を同時に満たす製品として選定されたのが、ALTUSEN(オルトセン)シリーズのKVMドローKL9116である。

KL9116は17インチLCDモニタ、キーボード、タッチパッドのコンソール機能と16ポートKVMスイッチの機能を兼ね備え、製品自身に単独のIPアドレスを設定することでリモートアクセスにも対応したデジタルタイプのKVMドローである。この製品を導入することで、コンソールが1Uに集約され、空いたスペースを他の目的に有効活用できるだけでなく、管理者は自席にいながらにしてリモートアクセスでサーバーを操作することが可能だ。

さらにKL9116は、ただ単にリモートアクセスの環境を提供するだけでなく、ユーザー認証にも対応。ドロー側でのユーザー認証にパスしなければ製品配下のサーバーにアクセスすることができないので、システムのセキュリティも確保でき、まさに一石二鳥である。

## 導入の効果

ラック内の無駄なスペースを大幅に削減。大半の作業をリモートから行うことにより作業効率も UP



製品導入後のシステム構成(クリックで拡大)

KL9116の導入がJSCにもたらした最大の効果は、ラック内部におけるコンソール部分の大幅な削減であった。以前はコンソールデバイスとKVMスイッチで10Uものスペースを占めていたが、その部分をKL9116本体の高さである1Uに縮小。このため、空いた場所に他の機器をマウントし、貴重なラックスペースを有効活用することができた。

これに加え、作業の環境や効率という点でも得るものは大きかった。リモートアクセス機能を利用することによって、サーバーの物理的な電源操作以外はすべて自分の席から作業が行えるようになり、作業効率が向上。さらに、KL9116は、サーバーに負荷がかかるソフトウェアベースのリモートアクセスとは異なり、ハードウェアベースでリモートアクセスを行うため、サーバーの処理に影響を与えることのない、安定したリモートアクセスの環境を確保することができた。

## 感想・今後の展開

KL9116 を使ったりリモートアクセスで作業時間の短縮を実感。他部門への展開も視野に

KL9116を使ったリモートアクセスによって、作業時間の短縮を実感したという。これは、自分の席からすぐに作業を始められるようになったことで、以前のように作業の度に現場まで移動する必要がほとんどなくなったからにほかない。

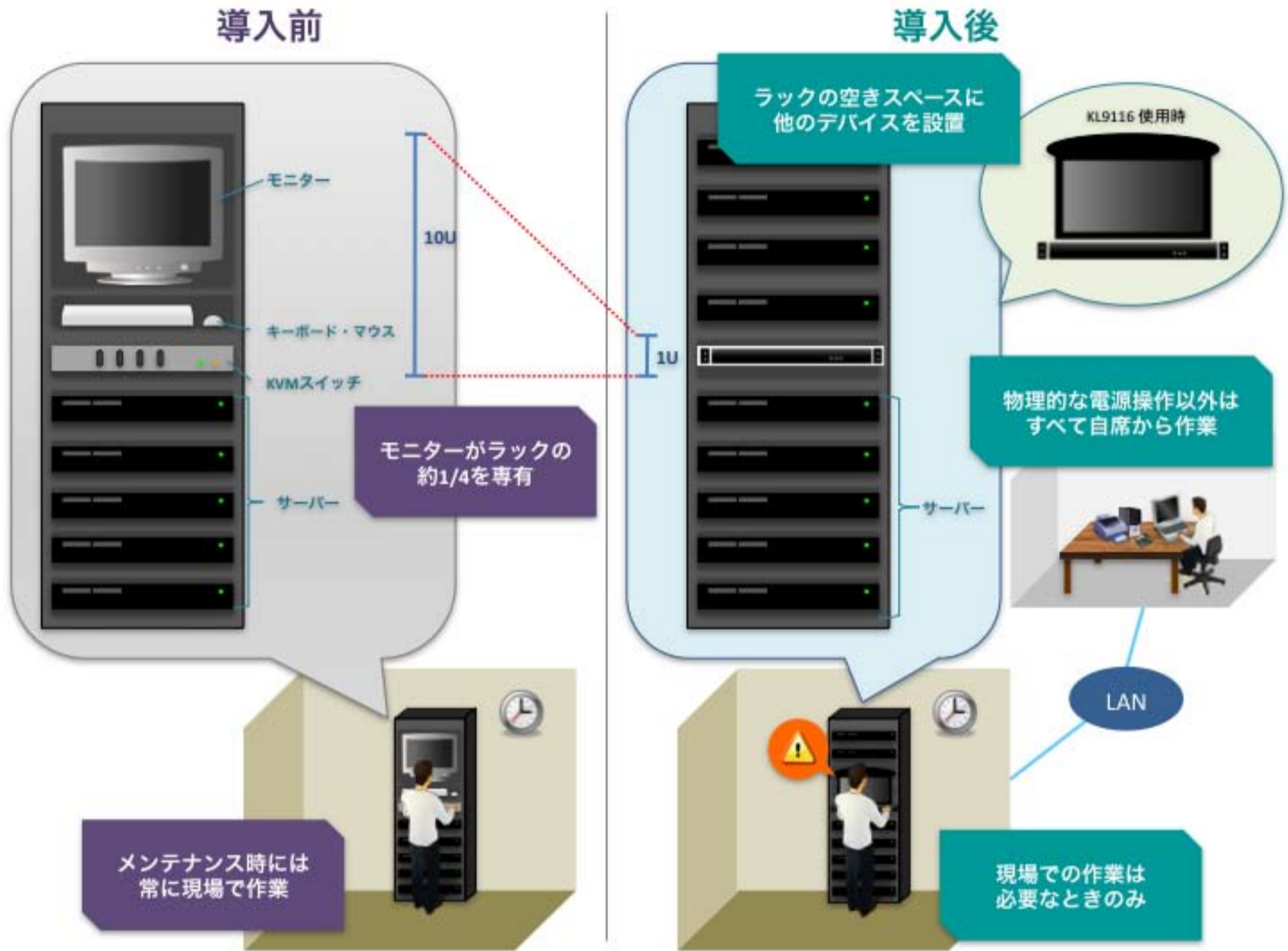
さらに、KL9116はリモートアクセスの環境さえ整っていれば、ユーザーがどこから操作しようとも、また、デバイスがどこに設置されていようとも、サーバーへのアクセスが可能であるため、将来、仮にラックがデータセンターに移管されたとしても、設置場所の変更に伴う作業をするだけで引き続き使用できる点にも満足しているという。

JSC社内では、以前のような方法でKVMスイッチを使っている部門が他にもあるとのこと。将来は、今回の事例をこれらの部門にも展開し、ラックの省スペース化や作業の効率化を、部署単位だけではなく会社全体でも目指していきたいと語っている。

## 会社概要

会社名	株式会社JSC
場所	(東京本社)東京都豊島区西池袋3-27-12 池袋ウェストパークビル9F
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムコンサルティング</li> <li>・ソフトウェア開発</li> <li>・システム運用管理</li> </ul>

構成図



本文に戻る